



((大谷:画)

ムスターグ・アタへの道！

リコー山の会では創部40周年を記念して、本年7月24日から8月23日まで、中国・新疆ウイグル自治区にある「ムスターグ・アタ(慕士塔格 7,546m)」へ遠征隊を送り、このたび無事帰国しました。

このところのアジアの異常気象の影響を受け、毎日の降雪に悩まされましたが、8月16日に1名の登頂者を出すことに成功しました。このページでは遠征隊の準備および活動結果に関し紹介します。

プロローグ

あれは2年前の岳沢での夏合宿のテントの中であった。諸先輩方から中谷さんに「次はどここの山を狙っているんだ？」という話で、中谷さんから「実は再来年ムスターグ・アタへ行こうかと思っているのですが.....」という話があり、え？ それどこ？ 中国？ で、どのくらいの山なの？ 7000m？ メンバーは？ という話で盛り上がった。「いいな～！ ヒマラヤか！ 自分の技術で行けるのかな？ それ以前に体力は大丈夫かな？ でも1ヶ月以上も休めないし.....」と思いながら眠りにつく。明日は登攀！ 私は明日のことだけで精一杯であった！！

それから半年。行きたい気持ちと休めるのか？ という現実が入り乱れる中、タイムリミットが近づいている。

中国での登山は、1年前までに中国登山協会に登山申請を出さなければならない。

そう考えるとそろそろ自分の気持ちを整理し、上司に休みの許可をもらい、隊員に加わる(加わりたい)旨を伝える必要がある。

恐る恐る上司に打診すると、「そうか.... まあ仕方無いねえ！ まだ大分先だから仕事のことはあとで考えるとして.....」という暖かい言葉をもらい、「よし！ これで第一歩だ！」と心の中で呟く！

そうと決まれば一刻も早く中谷さんへ参加表明しなければいけない。

中谷さんへは札内岳へ向かう車の中で、「アタへ行きたいのでメンバーへ入れて下さい！ 上司には休みの件を話してOKをもらいました！」と伝え、正式に隊員となる。

そんなわけで8月の登山申請提出時の確定者は2名！ 登山申請に何人と書こうかと悩んだ末に、「2～4名」と記入したところ、登山許可証にも2～4名と書いてあり、これには少々苦笑してしまった。

9月に入り会の中で正式に発表することとなり、9月20日のミーティングで計画が発表されたところ、最終的に隊員は6名となった。

(澤田:記)

ムスターグ・アタ(Muztag Ata 慕士塔格 7546m)ってどこにあるの？

ムスターグ・アタは、中国・新疆ウイグル自治区にあります。

シルクロードを西へ向かい、タクラマカン砂漠を越え、パミール高原の彼方、パキスタンとの国境近くに聳えています。

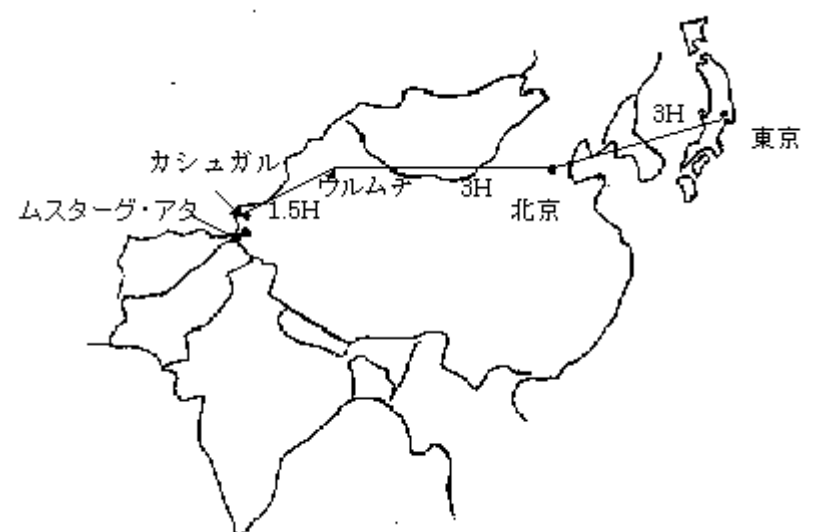
ムスターグ・アタの麓にあるスバシの街から、カラコルムハイウエーを更に西に進むと、まもなくパキスタンとの国境「クンジュラブ峠(4943m)」です。

日本からは、東京->北京->ウルムチ->カシュガルと飛行機を乗り継ぎ、更にトラックで麓のスバシへと向かいます。日本からは飛行機の乗り継ぎの関係で約3～4日かかります。

近年は成田から空路イスラマバード(パキスタン)を経由し、陸路でクンジュラブ峠を越えて中国入りする隊もあるようです。

スバシの標高は3600m！ 富士山の山頂くらいの標高があります。

ここから4400mのBC・5400mのC1・6200mのC2・6900mのC3を経て、7546mの山頂へと向かいます！



準備が始まる！

11月より月1回のペースでミーティングが始まる。

ムスターグ・アタの紹介から、高所登山における問題、装備の検討、日程検討、タクティクスの検討等、話すことはいくらでもある。

隊員の勤務地がバラバラな為、仕事が終わってから頻りにミーティングを持つことができないが、この辺りは職域山岳会の便利なところで、電子メールを活用して情報交換を行うことでカバーする。

ラクダ US\$23？

中国にはネパールのようなポーターがいない！ ムスターグ・アタではBCへの荷上げにラクダが使われるのが通例である。  
こんな山奥にラクダが？と思われるかもしれないが、あの「月の砂漠」の歌で有名なタクラマカン砂漠がすぐ側にある。  
大きなラクダに隊荷を縛り付け、編隊を組んで歩く姿は今から楽しみである。  
ラクダでの荷上げは1頭 US\$23！ 数百キロにも及ぶ隊荷を上げてもらえるかと思うと、我々にとってはありがたいことである。

ムスターグ・アタの雪線は結構高い！ 例年 5400m が雪線となり、ほとんどの隊が雪線付近にC1を建設する。  
BCからC1へはヤギが活躍する！ 荷上げの日はBCで寝ていると「メー！ メー！」と言う泣き声で起こされるそうである。

(和田：画)



アナカン準備始まる！

4月 18～19日 第1回目の隊荷(アナカン)の準備が始める。

18日朝、リコーロジスティクス株式会社のご厚意により、今回隊荷を集めることになっている磯辺隊員の家には大きなプラパール(プラスチックダンボール)が届けられる。ダンボールは人が足を折りたためば入ってしまいそうなサイズ！ しかも外からがっちり止められるバンドが付いている！ 部屋は朝届いた16個のダンボールでいっぱいであつた！

当日は今まで各隊員が準備していた荷物も運び込まれ足の踏み場も無い。

GWに行われる槍ヶ岳山行で使用しないものを全て集めたのだが、1ヶ月間でこんなに必要なのだろうか？と思うくらいの荷物である。

更に食料の買い出しが始まり、荷物は増える一方！ 早く仕分けして梱包を始めなければ収集がつかない。

買い出しもほぼ終了し、梱包が始まったのは土曜日も夕方近くであつた。

各キャンプ別に箱を決め、リストに添って数をチェックしながらの梱包となるが、この日は数個仮梱包したところで終了となる。

第2日目は、食料の仕分けを中心に梱包が行われた。

この日は以外にスムーズに進み、夕方近くになって今回集まった隊荷のほとんどが仮梱包され、部屋には10個のプラパールが高く積み上げられた！

宿題にパッキングリスト作成が残った。普段何気に使用している登山用具だが、英語名がわからず少々苦戦する。あれ？ これドイツ語？

宣伝部で作ってもらったリコーの旗も無事アナカンに間に合い、第3回目の梱包はGW山行終了後の5月10日に行われた。

アナカン準備は今日が最後となり、明日には隊荷の発送が行われる予定である。

GW山行で使用した共同装備、アナカンで送る個人装備、それに行動食のパッキングが中心である。

この日も作業は順調に進み、16:00頃無事パッキングが終了する。

今回の隊荷＝プラパール特大13個！ 重量＝約400kg！ であつた。

5月11日。隊荷は無地日通のトラックに載って、我々の手元から中国に向けて出発した。

あとはしっかり高度順化トレーニングを行い、出発の日を迎えるだけである。

隊荷発送に際しご協力頂きました方々、本当にありがとうございました。

予防注射

事前の医療チェックとしては、各人の人間ドックの結果を集め、青山事業所の診療所の医師に可否の判定をしてもらう。この辺りは職域山岳会だからできることであろうか？

全員OKが出、まずは一安心！

次に問題となるのは予防注射である。

中国って何が必要なのだろうか？

同僚に上海リコーへ出張した人がいたので聞いたところ、「肝炎は必須だよ！」と教えてもらう。しかも社内には人事本部が出している「海外派遣・出張社員予防接種マニュアル」と言うのが存在ことを教えてもらい、早速取り寄せたところ「A型肝炎」「B型肝炎」「破傷風」はやる必要があることがわかる！

更に出張者に聞くと、C型肝炎もやったと言う。

しかし出張と違って「全て自前！」肝炎の予防注射は高いらしい！

予防注射は各3回ずつやらなければいけない。

値段が出ていたので概算すると7万円近くかかってしまう！

以前読んだ遠征隊の報告書に「肝炎になって登山ができなくなり、あえなく帰国」と言う記事が出ていた。「そんな事で登山できなくなったら恥ずかしくて帰ってこれないなあ」と思い、早速予防注射を始めることにする。

都合が良いことに会社の近所には「海外勤務健康管理センター」と言うところがあり、早速電話で上の3種類の予防注射ができるかを確認し予約をとる。

医師との面談で、「A型肝炎」「B型肝炎」「破傷風」の予防注射をやることになり、早速当日から予防注射が始まる。

腕が3本あつたなら.....

予防注射はそれぞれの腕に打つ為1回に2本しかできない。その為思っていた以上に病院に足を運ばなければならず、その都度フレックスのコアタイムギリギリで会社を抜け出しておの病院通いとなる。

しかもキリマンジェロへ行く為に「黄熱病」の予防注射も打たなければならず、黄熱病の予防注射を打ったあとは1ヶ月間別の予防注射ができないこともあり、スケジュールリングが思いのほか大変であつた。

11月の下旬に2回目(6本)が終わり、「次は出発間際だね！」と言われ、「ああ、6月頃3回目をやる為に病院通いしなければいけないのか...」と思う。

そうなのである！ 予防注射の3回目は、1回目・2回目の間隔が2週間くらいなのに対して、3回目は3～6ヶ月後なのである。

予防注射は計画的に進めなければ間に合わないのである！

## 高度順化

日本国内で高度順化が行えるところと言えば、富士山頂か減圧室くらいだろうか？  
我々の隊は貧乏隊！ 隊員が東京周辺に住んでいると言う地の利を生かして5月下旬より毎週末富士山通いが始まる。  
今回の遠征で車で入るスバシの村は、富士山頂とほぼ同じ高さである。  
我々の隊は通常の隊に比べて遠征期間が短いこともあり、BC入りまでの高度順化が勝負の分かれ目である。  
そこで出発までに、富士山頂に8泊する予定を立て、順化活動が開始された。

今回の遠征では、パルスオキシメータと言う血中酸素飽和量を測定する機械を持って行く。酸素飽和量は高度障害(高度障害予備軍?)に対する1つの目安として使用することができるようであるが、我々の隊には医師がいるわけではない為、各人の日ごとのデータを元に判定材料の1つとして使用することとした。  
その為富士山トレーニングには必ず持参し、要所所で測定を行い記録をとることとした。

今年の富士山は例年になく雪が少ない！  
5月下旬から水をポッカしなければいけないとは思わなかったが、アナカンでほとんどの天幕を送ってしまい、ツェルト泊まりを余儀なくされている我々にとっては、非常に助かったことも事実である！  
毎週ともなると色々な天気を経験することができる。ツェルト泊りでは悪天の日是非常に辛かったが、遠征期間中のことを考えれば「これもまた修行！」と思うことにした。  
身体の方も次第に高度に慣れ、出発が近づいていることが感じられる今日この頃である！



ついに出発を迎える！

本当に長い2年間であった。皆様の暖かいご理解ご協力が無ければ出発の朝を迎えられなかったであろう！

海外登山には政治情勢等なども関係してくるとは聞いていたが、この間におきたインド・パキスタンの核実験により、出発間際でイスラマバード(パキスタン)経由で入山予定の隊がルート変更を余儀なくされたりと、他の遠征隊でも色々あったようである。  
我々の隊はと言うと、当初から北京経由であった為にこの影響は受けなかったものの、同時期が中国登山協会への隊費の振り込み時期となってしまう、ドル建てでの支払いの難しさも身を持って体験することとなってしまった。

国内での準備、トレーニングと、何をとってもしっかり仕事をしながら行う為に、本当に満足できるだけのことができたのだろうか？  
色々考えても始まらない！ 限られた時間でベストを尽くしてきたはずである！ 悔いの残らない登山を心がけるしかない！  
全員無事登頂を目指し、明日から遠征に出発します。  
遠征隊に対し暖かいご支援ご協力頂きました方々へ改めてお礼を述べさせていただきます。

## 全体スケジュール

97年

### 7月31日～8月10日 現地へ調査に向かう

- 8月20日 中国登山協会(CMA)へ登山許可の仮申請を行なう
- 9月29日 97 ムスターグ・アタ報告会参加(日本ヒマラヤ協会)
- 10月16日 CMAから仮登山許可証を受領する
- 11月3日 第1回遠征隊ミーティング
- 11月7日 パーソナル事業部・商品企画室とのミーティング  
(遠征時に使用する器材の貸出しの件)
- 11月11日 97 女子隊より情報収集(無名山塾事務所)
- 11月29日 都岳連・第18回高所登山研究会
- 12月7日 第2回遠征隊ミーティング
- 12月12日 CMAと打ち合わせ(リコー青山事業所)

98年

- 1月10日 CMAへEMSで議定書発送
- 1月31日 第3回遠征隊ミーティング
- 2月11日 議定書受理の連絡が入る
- 2月21日 第4回遠征隊ミーティング
- 2月21日 議定書を受け取る(日山協・第36回海外登山技術研究会)CMA趙氏来日
- 2月24日 CMAへ登録料・預託金 \$3240 送金
- 3月14日 都岳連・第19回高所登山研究会
- 3月15日 第5回遠征隊ミーティング
- 3月29日 CMA趙氏との会食(日程表・予算書を手渡す)

登山許可証  
LETTER OF ENTHUSEMENT



中国登山協会  
CHINA MOUNTAIN ASSOCIATION  
CHINESE MOUNTAIN ASSOCIATION

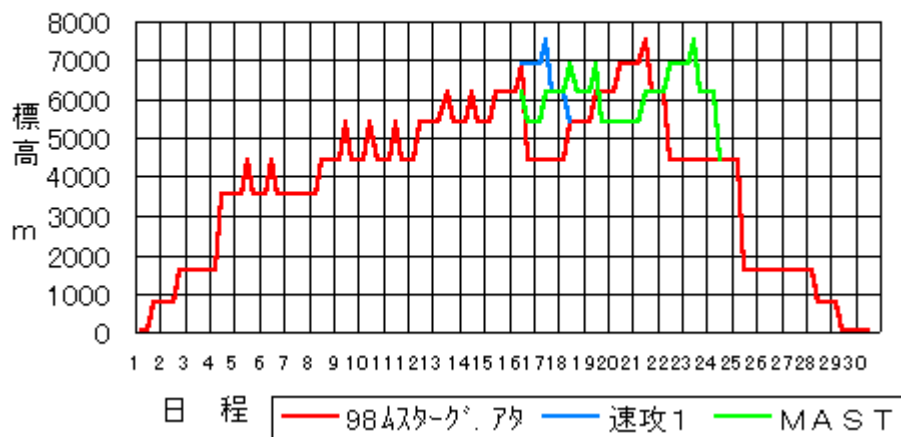
- 4月7日 経営企画室・宣伝部とのミーティング  
(遠征時に持って行くR旗作成の件)
- 4月18~19日 隊荷(アナカン)買い出し及び梱包
- 4月20日 航空券予約
- 4月30日 CMAへ隊員名簿・無線機使用許可申請提出  
(議定書交換から2ヶ月以内)  
CMAへ日程変更を連絡(新しい日程表の提出)
- 5月10日 アナカン最終梱包
- 5月11日 アナカン発送  
(CMAへのAWB・パッキングリスト送付に関しては  
アナカン業者の方で直接行う)
- 5月31日 第6回遠征隊ミーティング
- 6月2日 無名山塾隊との情報交換会  
(株式会社無名山塾・事務所にて)
- 6月9日 CMAへ残金送金(入国1ヶ月前まで)
- 6月11日 CMAへ残額支払い連絡  
ビザ申請用の招待状送付依頼  
購入・借用品依頼書送付
- 6月17日 第7回遠征隊ミーティング
- 6月25日 CMAより招待状到着
- 6月30日 第8回遠征隊ミーティング
- 7月5日 遠征隊・家族顔合わせ会
- 7月9日 在日中国大使館へビザ申請
- 7月9日 第8回遠征隊ミーティング
- 7月10日 ビザ発給
- 7月20日 CMAへ最終入国通知書の送付
- 7月21日 外務省へ便宜供与依頼状提出
- 7月24日 出国
- 8月23日 帰国

登山期間スケジュール

1998年7月24日~8月23日(31日間)

- 7月24日 成田出発 → 北京
- 7月25日 北京 → ウルムチ
- 7月26日 ウルムチ → カシュガル
- 7月27日 カシュガル(登山準備)
- 7月28日 カシュガル → スバシ  
高度順化期間(4日間)スバシ~BC
- 8月1日 BC設営  
スバシ → BC(ラクダ荷上げ)
- 8月5日 C1入り
- 8月8日 C2入り
- 8月9日 C3建設
- 8月14日 登頂
- 8月18日 BC → カシュガル(BC撤収)
- 8月19・20日 カシュガル(隊荷整理)
- 8月21日 カシュガル → ウルムチ
- 8月22日 ウルムチ → 北京
- 8月23日 北京 → 成田帰国

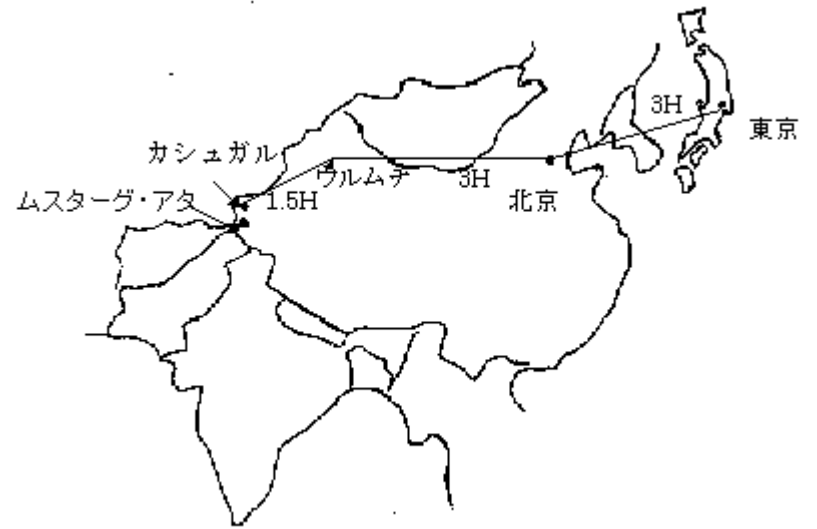
ムスターグ・アタ



## '97 ムスターグ・アタ下見日誌

7月31日(木)北京へ:

夏休み2日前だけど、8月になると飛行機代が2万円も高くなるので、有給休暇をいただく。隣の出発ロビーは小学生の団体で大騒ぎ、行き先はなんと北京。中国が海外旅行のベスト2らしい。近くなったのか、日本が豊かになったのか。2万円浮かす人？で機内は満席。機内放送は中国語→英語→日本語の順、へたな日本語！空中小娘でこのレベル、俺の中国語は最低だな。お茶はジャスミン茶、機内は既に中国だ。4時間で北京に着陸、荷物チェックは無し。両替・バス券購入無事完了、名前だけのリムジンバスに。左回りの筈が突然、右に毛沢東の顔。ああ、天安門！左には天安門広場！。現在位置認識。来たあ～中国に。感激。民航オフィスで下車。軽1BOXのタクシーで天橋賓館へ。土砂降り、夕食と安ビールの買い出し。



8月1日(金)ウルムチへ:

小吃で油条と豆乳の朝食、期待が大き過ぎた、でも15円だ。1時間歩いて民航でリコンファーム。天安門広場には赤トンボ。柴禁城はいつ来れるかな。チェックアウト後、空港へ。工事中。出発ロビーの弁当は4千年の味、旨い。ロシア製のガタガタジャンボは1時間遅れで離陸。ハミやボコダなどの機内放送、サービスはまずまず。天山の白い山にホッと、山男の特技か。4時間で砂漠の中のオアシスへ着陸。背の高いポプラがシルクロードを演出している。早速ハプニング。ザックは北京?! 3ヶ国5人がウロウロ。明日の同じ便で来るらしい。明日は朝一番のフライトなのに。でもカシュガルへ転送してくれるとの事、本当かな。タクシー運転手は暇日酒店(ホリデーイン)を進めるが、分相応な紅山賓館へ。夕飯は羊の炒飯60円。標高950m?

8月2日(土)カシュガルへ:

早朝、空港へ。東へ歩いても日本は・・・感傷的に。エアー・ボルガの借上げ機で更に西へ。砂漠上空は埃っぽい、下は砂漠色。1時間半でタクラマカン砂漠を越え、カシュガル着陸。ウイグルの街。中国人と言うよりもアラビア人だ。シルクロードが臭うスパイスが街に漂う。体調が良いので気にならないが、ウイグル語は馴染めない。本場のナン、15円うまい。宿を探しチェックイン、パスポートを出すと外国人料金で2倍。北京から4千キロ、西の端は貧しい。今日も高度チェック、標高1655m。意外と高いのが、うれしい。

8月3日(日)バザールを歩く:

今日は観光客に徹し、日曜バザールへ行く。喜多郎のシルクロードが聞こえそう。砂漠に消える河を渡ると、ロバ、荷車、トラクタ、トラックそして人人人。欧米人も多い。早速、スノーバーに使えるような装飾品。喉が乾くと、ハミ瓜、甘い西瓜、一切れ15円。脇道に入ると、なんと間口1間の一大バザール。その昔は交易品市場だったのだろうか。靴屋、布地屋、帽子屋、金物屋、部品屋、電気屋……。実用品ばかりだが見ていると楽しい。水筒、ウイグル帽、ビバークに使えるような布地を買う。昼食はウイグルうどん、45円。山へ行くのでなければ、買い物ツアー、おみやげ漁りに陥りそう。値引き交渉で疲れるけど。

8月4日(月)購入品の調査:

休日明け。まずは中国銀行で円を元に両替。その元で帰りの航空券を無事購入、ここは未だオンライン化されてない。無愛想だ。次に公安で、未解放地域の外国人旅行証を入手50元。ザック替わりに鞆、ジャージ上下、軍用屋でキルティングを購入。ザックのことは頭に無い。エイテガル寺院そばのバザールで非常食用のナッツを仕入れる。0.5Kg単位で多すぎる。百貨店を覗く、ここは定価なので気楽だ。何処から来るのか魚もある。双眼鏡を衝動買い!。これでムスターグ・アタを見る準備ができたぞ! 街の中は歩き尽くしたが、山&レジャー用品は見あたり無し。今日は外人向けの宿でゆっくり休む、でも保証金500元は高い。

8月5日(火)アタの麓へ:

7時起床。新疆時間では5時、夜が明けたばかりだ。現地調達の可能性は今一歩だったが、今日は、いよいよパミールだ、本物のアタに会える。12時パキスタンへ行くバスは定刻に発車。乗客は22名、屋根に荷物の山を作ったパキスタン人5名、他に白人8名、軍人2名、そして何処から沸いて来たか日本人が7人もいる。エジプトを目指す奴、チベットから来た奴などなど。13時、最後の村でゆっくりと昼食休み。左奥に白い山を見ながら、乾いた大地をひたすら走る。16時、景色が平原から溪谷へ変わると、チェックポストがある。パスポートを見せて通過。バスは地獄のようなゲス谷から、ノロノロから這い上がって行く。18時前やっと道が平坦になり、パミール高原の草原に飛び出す。ヤク、ラクダ、パオ、緑のある処には人間もいる。そろそろアタが、目の前に広がるはずだが、雲の中である。18時45分カラクリ湖に着く。湖畔にはレストラン? が2軒とパオが7張り。噂のホテルは無い。バスを降りたのは4人それぞれ泊40元のパオに収まる。意外と広い8畳はある。ツアー客が帰った今は、アクト登山協会の立派なレストランは閉店。素朴な方で定食を食う。

8月6日(水)カシュガルへ:

7時起床、標高3500mいきなり動くクラクラする。薄暗い湖面には、冷たい風に吹かれて波がたち、その奥にはムスターグ・アタが黒いマントを着て立っている。快晴だ。パオからスーツと荷物を引き出し、スバシをめざして快調に歩き出す。何処まで行けるかな。タベ下見した所を越える辺りから、バテバテの兆候。自転車があればナ、ハイウェイに飽きてくる。アタの雄姿を鑑賞しつつ道端で雄撃ち、まるごと3000mは大きい!。11時、スバシの草原で大休止。BCへ行く元気は無い、大パミールにドブプリ浸かって、大満足してしまった。山なら登頂して帰りxのパターンだ。代わりにパワフルな双眼鏡で、たっぷり遊ぶ。うれしい! C2、C3へのトレールが見える。それに、人も。写真よりも傾斜がある。富士の半分位か。うっ! 遠方にバス。ハイウェイに駆け戻ったが、運転手は手を振り通過。今日は帰れない。カラクリ湖へ戻る。途中現地人にバイクで送る20元、装飾ナイフ200元、商売され安い車上の人となる。20元は腑に落ちないが爽快だった。大レストラン前で漢人らしい人に、今日カシュガルへ行く車の有無を聞くと、英語で「これに乗っていけ」と喀什地区登山協会のマイクロを指す。結局、ウルムチで手配した欧米人の、アタBCツアーのバスで、その通訳兼ガイドに拾われたのだった。さすがに日本製バスは快適で早い。登山協会はツアーでも稼いでいたのか。この方が良いかもしれない。4時間後の18時、カシュガル色満賓館に着く。30元だった。お礼と来年アタに登ることを告げると、名刺をくれた。ツアー部マネージャーの王 副主任である。あとで散々お世話になるとは。高級な色満賓館を避け、チニヤケの旧館に泊まる。ツイン180元。パキ行きのバスが出るので、パキスタン人が多い。ドアの外がうるさい、どうもツインに一人で泊まっている金満日本人が気に入らないらしい。段々エスカレートしてきて、ヤバイ雰囲気になってきたので、2時、窓から非難脱走することにした。2階だが結構高い。昔、欧米の領事館だったせいか西洋建築である、



無事着地。こんな時頼れる処は、登山協会しかない。暗闇だけどなれた道。

8月7日(木)ウルムチへ:

朝帰り?らしい人に名刺を見せて、王さんのところへ案内してもらう。事情を説明。

荷物の回収と明日のフライトを今日への変更の、援助をお願いします。5時、宿へ戻り荷物を回収。酔っ払っていて暴れたらしい。その後エアーチケットも変更できた。痛み出した腰のマッサージに病院に連れて行ってもらう。鎮痛剤と止血剤を渡される。ギックリ腰かと思っていたが、1ヶ月後骨折と分かる。山ばかりで上半身がなまっていたと反省の毎日です。再度、宿へ戻り王さんがマネージャーに抗議。フライト時間まで、静楼(高級な部屋の建物だった)で休むことになる。今旅2回目の対不起を聞く。チープな処は安全もチープ。協会アレンジのツアーではノートラブル。クラスをわきまえないといけないとの言葉に納得した。お世話になった王さんは、また来いと言って帰って行った。真謝 である。

夜景を見ながら、飛行機はウルムチに降りた。漢族一色の街に、なぜか気が休まる。

ダメ元と腹を括って荷物係りへ行くと、ザックはカシュガルに送ってあるとのこと、ああ〜。明日の便で、送り返してくれることになった。壁の荷物不正常処理90%の目標が気に掛る。今夜は思い切って暇日酒店(ホリデーイン)に泊まる。さすがにワールドチェーン、外とは別世界。でも、従業員の彼らの普段の生活を想うと、素直には喜べない。

8月8日(金)ザックに再会:

ウルムチの街を探検する。百貨店、書店、ウイグル人街など、しかし百万都市は広い。歩きが楽しいが、タクシー利用が多くなる。ビルの谷間から見たボコタの白い峰が印象的だった。宿を華僑賓館に替える。多くの隊が使っている宿だ。7Fに日綿の事務所があった。ここにも、ヨーロッパのキャンピングカーが来ている。現代の胡人、東方見聞だ。夕方、空港へザックの回収に。行きはリムジンが無く、タクシーを使う。メーターで走る真面目な?人だった。日本人とみれば2倍も珍しくないのに。暗い空港に爆音が響き、着陸する。音が砂漠に吸い込まれるのか、余韻が無い。出口からロビーに逆行し、ターンテーブルを見つめる。まだ半信半疑。来た!!!旅の終わりで無事再会。

多謝?。早速、宿で中味チェック。OK。やっと毎日の洗濯から開放された。髭も剃って、気分一新。でも、使えなかったガイドブックやカメラなどなどで、重くなった荷物が辛い。

エレベータの前に陣取っていたフロア担当の従業員は、最後の客が戻ってくるのを待っていたようだ。もっと、丁寧にお礼を言えば良かった。相変わらず回転が遅い。

8月9日(土)北京へ:

9時のフライトなので7時にチェックアウトする。道は未だ人はいないが、人民公園の小吃は混んでいる。ロシヤジャンボ:イリュウシン86の乗り込む。4個目の扇子かとおもったら、新疆航空の帽子だった。エアコンが効いているからイイか。

なつかしい首都空港に到着。これでどうなっても帰れる。16元のリムジンで北京駅へ。待望の地下鉄に乗る。2元。おばさんが後ろの席が空いたと教えてくれる。今夜は、三ツ星の竹園賓館に泊まる。四御院作りだそうだが、現代的なシングルルームが当たった。中国最後の宿、奮発して冷えたビールを頂く。鐘楼を見に行く元気もなく、家へ電話して早めに休む。

8月10日(日)無事帰国:

今日も、また早朝フライト。でも北京時間なので、違和感はない。タクシーは、故宮・紫禁城の裏から、中南海を抜けて民航オフィスへ。10元。リムジンバスで空港へ。京成電車の中で、……自然の一員としては中国庶民の方が強いのに、イヤ日本人が一番弱いかもしれない……日本にはスキが無いなあ……これが日本製が売れる理由か……物作りが今の日本の反映のルーツか…… 気に掛かったことでした。

来年も行きます。もう少し力を付けて。

記録: 中谷

## 第1部: 中国へ出発

7月24日(金) 雨 北京へ出発

出発の朝だと言うのにもの凄い雨が降っている。荷物も多く、駅までどうしようかと思っているうちに時間になってしまう!「仕方が無い!荷物になるが傘をさして行くしかない!」

先日横浜からのNEXの予約を入れたがいっぱいであった。さぞ空港は混んでいるのだろう!横浜駅でNEXを見送り、快速エアポート成田で空港へ向かう。12:40 空港第2ターミナル到着。ザックが大きくカートのままエスカレーターに乗れないためにエレベーターで出発ロビーへ上がるが意外にも空いている。

心配していた荷物のX線チェックも、重量オーバーも難なくOKとなりボーディングパスをもらってスポットへ向かう。

さあ旅の始まりである。我々の期待と不安を乗せて、CA926便は定刻(14:55)を少し過ぎて、北京へと飛び立つ。

日本と北京との時差は1H。フライト時間は約3.5H。

北京時間 17:50 CA926便は無事北京空港へ到着する。

北京空港ではCMAの趙さんの出迎えを受ける。心配していた無線機持ち込みの手続きもCMAの方が代行してくれる。

ここで同じ飛行機で来た栃木岳連の先発隊(3名)と一緒にいる。

空港からホテルまではCMAのマイクロバスで向かう。空港から中心街まではオリンピック誘致の際に高速道路ができ、非常に便利になったとのことである。

19:20 前門飯店(ホテル)到着。

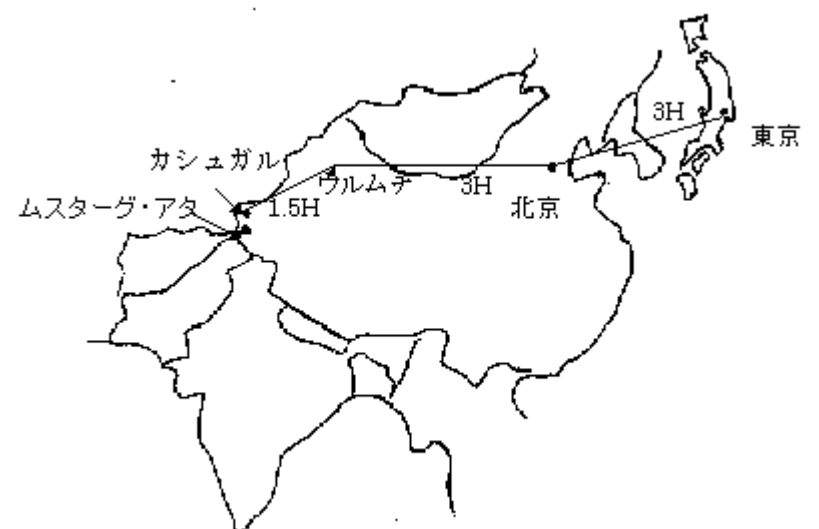
7月25日(土) 曇り 北京 -> ウルムチ

今日は夕方の飛行機でウルムチへ移動の予定である。

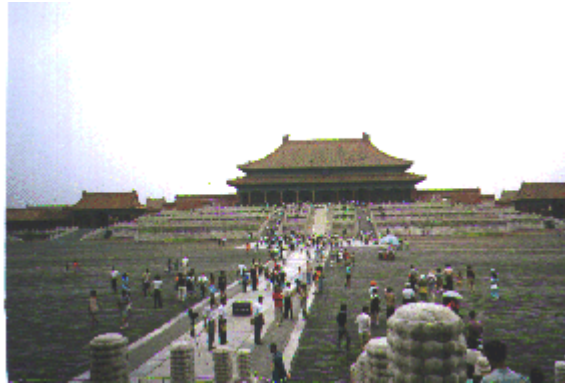
これと言って予定も無い我々は市内観光へと向かう。

天安門広場・故宮・北京美術館と見学し、少し早いが空港へ。

国内線の空港使用料は50元(1元は約20円)。カウンターでチケットを購入し空港内へ入る。



人でごった返すチェックインカウンターへ並ぶが、コンピューターが壊れたのかなかなか処理が進まず1Hかかってしまう。早めに来て良かった！  
北京からは栃木岳連隊の連絡官、張さんが同行する。  
CZ329便は20番ゲートから定刻 16:50 にウルムチへ向けて出発する。  
北京->ウルムチ間は3.5H。ほぼ成田->北京間と同じ距離である。  
20:40 ウルムチ着。公式には北京時間を使用されているが新疆時間では2H違う。  
ウルムチの人口は 130 万。日本の都市で言うと 10 万くらいの街並みにしか感じられない？  
ウルムチの標高は約 1000m。  
空港では新疆登山協会の出迎えを受け、我々の通訳となるアダラットさんと会う。  
ウルムチでは華僑賓館に泊る。



7月26日(日) 晴れ ウルムチ->カシュガル

ついに今日はカシュガルである。  
が、今日も飛行機は 19:30！なぜ夕方しか飛行機が無いのだろうか？  
仕方が無いので市内観光に行く。紅山公園・美術館(ローランの美女がある)・人民大会堂・絨毯工場、時間があればトルファンにでも行きたいところであるがとても行けるような距離ではない。  
ウルムチからはボゴタも綺麗に見え、ムスターグ・アタへの期待が高まってくる。  
XO9903便は定刻 19:30 に出発する。新疆航空のはずであるが機体には AIR VOLGA と書かれていて、おまけにロシアの国旗まで付いている。ボーイング 727 に似た3発のジェット機だが、これがスポレフだろうか？  
20:45 カシュガル到着。カシュガル登山協会の出迎えを受ける。ついにタクラマカン砂漠の西の外れまで来てしまった。カシュガルの標高はおよそ 1500m。早速出迎えのマイクロバスでホテルに向うが、周りは泥でできた家が並ぶ。  
今夜の宿はカシュガル賓館。この辺りでは一流であるが、部屋でシャワーに入っていると突然停電！  
この辺りまでくるとホテルでもヘッ電が必要なのだろうか？



7月27日(月) 晴れ 買い出し

今日は移動は無し。明日からの山行の為に準備を行なう。  
ホテルから登山協会まで移動するバスの窓からムスターグ・アタを見ることができる。  
登山協会に着き、5月に送った荷物の確認を行なう。ここで2班に別れ、私は買い出し班となり、登山協会のマイクロバスで午前中の買い出しに出かける。  
炊事道具を始め何でも揃うが、どこで何を売っているかよくわからない。連絡官の王さん、通訳のアダラットさんの力を大いに借りるがなかなか進まない。  
帰りに郵便局に寄り、日本へのお礼状を出し、ひとまず登山協会へ戻る。  
午後の買い出しは 16:00 から始まった。午後はモスク周辺にある店へ行く。露天で灯油を購入する。瓶に入った灯油が秤売りなのには驚く。  
買い出しはゆっくりとしたペースで進む。こんなことで終わるのか？と思うが、まあ彼らに任せるしかない。  
19:00 買い出し終了。明日の出発をスムーズに行なうために、登山協会へ戻り荷物をトラックに積んでしまうこととなる。  
今回使用するトラックは登山協会のニッサンパトロール！あまり荷台が広くないが大丈夫だろうかと思っていたが、何とか山盛りで荷物が収まる。  
明日の出発を前に、今夜はホテルの Grape Bar でワインを飲む。  
今夜が最後のシャワー&ベッドなので、ゆっくりシャワーに入り 23:30 ベッドに入る。



7月28日(火) 曇り->晴れ カシュガル -> スバシ

スバシへ向けて出発の朝！

いつもと違って曇っている。しかも夜半から風が強い！

7:30 起床。早速ザックに荷物を詰め出発準備を行なう。

ついにムスターグ・アタを間近で見られる日である！

10:00 ホテル出発。バスは一路カラコルムハイウェイへ向って走る。

狭い峡谷を抜け、15:40 カラクリ湖到着。目の前にはムスターグ・アタが見える。

ここで遅い昼食をとり、30分でスバシへと着く(17:10着)。

既に草原に登山協会のキッチンテントが張ってある。

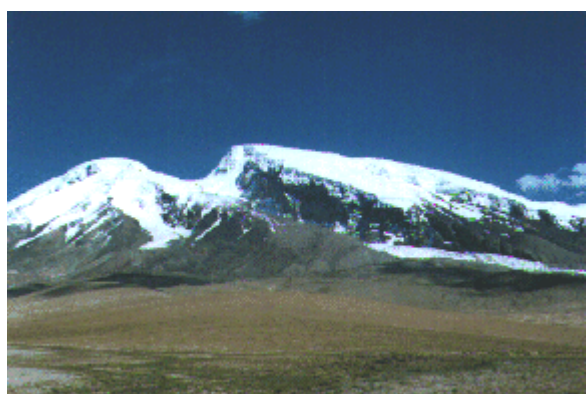
スバシの標高は3700m前後。ちょうど富士山頂に車で来てしまった感じであり、急激に動いては高山病になりかねない高さである。

とは言っても働かなければならない。早速トラックから荷物を降ろし、キッチンテントの周辺に宿泊用のテントを張る。

今夜は王さんが中華を作ってくれた。



長い移動も終わり、明日からはBCへの高度順化活動が始まる。



第2部: 高度順化始まる！

7月29日(水) 晴れ BC往復(スバシ-BC)

今日から高度順化の為に、しばらくの間BCとの往復を行う。

10:30 出発。草原をのんびりと歩く。

スバシからBCへは、目の前に広がる大草原を抜けて山麓へと向かうが、この草原のでかいこと！ 歩いても歩いても端まで行きつけない！ しかも我々は「BCはあの辺り」と言うことしか知らずに歩いている。まあ順化活動だと考えれば焦ることはない。まだまだ時間はあるのだから.....

のんびり歩くこと2H。やっと草原の外れにある小屋のところに到着し休憩する。

ここからは踏み後をたどって行けばBCである。

ここまで来ればあとわずかと思って進むが、山の規模が大きいせいかなかなか山が近づいて来ない。まもなく引き返す約束の15:30が近づいてくる。

少々時間を過ぎてしまったが、15:50BC(4300m)に到着する。それにしても随分とかかかってしまったものである。

BCでは無名山塾隊に挨拶に行き、スイカをごちそうになる。

帰りは？ と言うと、2.5Hで下りてしまう。



帰ってから王さんから、「あなたたちはラクダ道を歩いてしまったようだ！」という忠告を受ける。どうやら途中からBCへ直接登れるルートがあったようである。

7月30日(木) 晴れ BC往復(スバシ→BC)

8:05. 昨日は暑かったので涼しい内に歩こうと言うことで、今日は早めにBCへの往復へと出発する。  
昨日の忠告では、「とにかくBCへ向ってまっすぐ進め！」であったので、草原に付いている道も、昨日歩いたルートも無視して、とにかくまっすぐ進む。  
昨日1回BCの往復を行なったこともあって、今日は少し早いペース！ と言っても国内で歩くスピードの半分くらいだろうか？  
あまりまっすぐ歩いてしまった為か、氷河の真下付近まで来てしまう。  
BCへはどこを歩いても着きそうだが、今日もルート外を歩いてしまったようである。  
まあ仕方が無いのでセラックの下を横切り、川を渡ってBCへと向かう。  
今日歩いたところにはところどころにケルンも積まれていたが、地元の人たちが放牧にでも来た際に積んだものなのだろうか？  
稜線を見上げると登山者が歩いている。どうもそこがルートのようなのである。  
14:17 随分遠回りをしてしまったがやっとのことでBCに到着する。  
とりあえずBCを一回りし、天幕を張るところを検討する。  
今日は高度順化の為、C1へのルートを標高で約200m登ってからスバシへ下ることになる。  
帰りの課題は正規ルートを見つけることであったが、思いのほか上からだと簡単に見つかる。  
19:36 スバシのキャンプへ帰ると、ヨーロッパのトレッキング隊と栃木岳連隊の天幕がたっていて、パキスタン経由で入ったホンダの小松原さんと再会する。  
0:30に寝るが、雷が鳴り夜中は雨となる。



7月31日(金) 晴れ 休養日

今日は完全休養日である。栃木岳連隊は今日北峰のBCへ入るとのことで、朝から荷上げ用のラクダが集まってくる。我々は遅い朝食をとり、午前中は天幕の外で明日からの行動食の仕分けを行う。  
3700mだと言うのに日差しは暑い。風は涼しいのだが、大汗をかきながらの作業となってしまう。  
午後からは洗濯をする者、本を読む者、絵を描く者など、思い思いのことをして時間を潰す。  
夕方は全員でキルギス族の村であるスバシ村へ行き、村長(ケルドバックさん)宅を訪問する。  
話しによるとスバシ村は開村して2000年！現在は5軒が居住している。  
スバシは「水の舞」を意味し、本来は「スノンベシ」であったが、中国名になって「スバシ」となったそうである。  
この辺りの家は煉瓦を積み上げた土壁で、板張りの平らな屋根を持っている。  
解放前はタジクの辺りまで放牧に出かけたようであるが、現在では自由に入出入りできない為、スバシ周辺で放牧を行っているようである。山の草は5月頃から生え、この頃になるとスバシ村から動物を連れてだんだん山へ入って行くそうである。  
村長さんのお宅で、ナンと山羊の乳のミルクティーをご馳走になる。  
その後村の中で飼われているヤクを見せてもらったが、大きいのが800元・小さいのが400元だそうである。



8月1日(土) 晴れ BC入り(スバシ→BC)

今日はBCへの荷上げである。  
早めに起きたものの、10:00の予定のラクダがどんどん集まってきている。今日の行動はBCでラクダを迎える組、スバシで出発を見送る組の2組に別れる。私は先に出発してBCでラクダを迎える組となり10:30スバシを出発する。  
ラクダがリコーの箱を積んで歩く姿が見られると思っていたので、非常に残念だったが3HでBCに着いてしまうラクダ隊とは一緒に歩けない。  
ラクダ隊は12:00出発予定だったので楽勝と思っていたら、11:15無線機からラクダ隊が出発したニュースが飛び込んで来る。え?? 頑張らなければ追い抜かされてしまう!!  
ここから更にピッチを上げ、尾根ルートに入るとラクダが川を渡るのが見える。  
「これなら楽勝かな?」そう思ってBCへと急ぐ。  
14:15BC到着。何とかラクダより先に着くことができたが、少々頑張りすぎたような感じがある。そんなことを考えていると、もうラクダ隊が見えてくるではないか? 早いとは聞いていたがこれほどだとは思わなかった。14:30ラクダ隊BC到着。  
早速荷物を降ろし、個人テントを立てはじめた頃、無理が祟ったのか気持ち悪くなって来る。  
「やっぱり高度障害が出てしまった!」少し横になっていると楽になってくる。無理は禁物である!

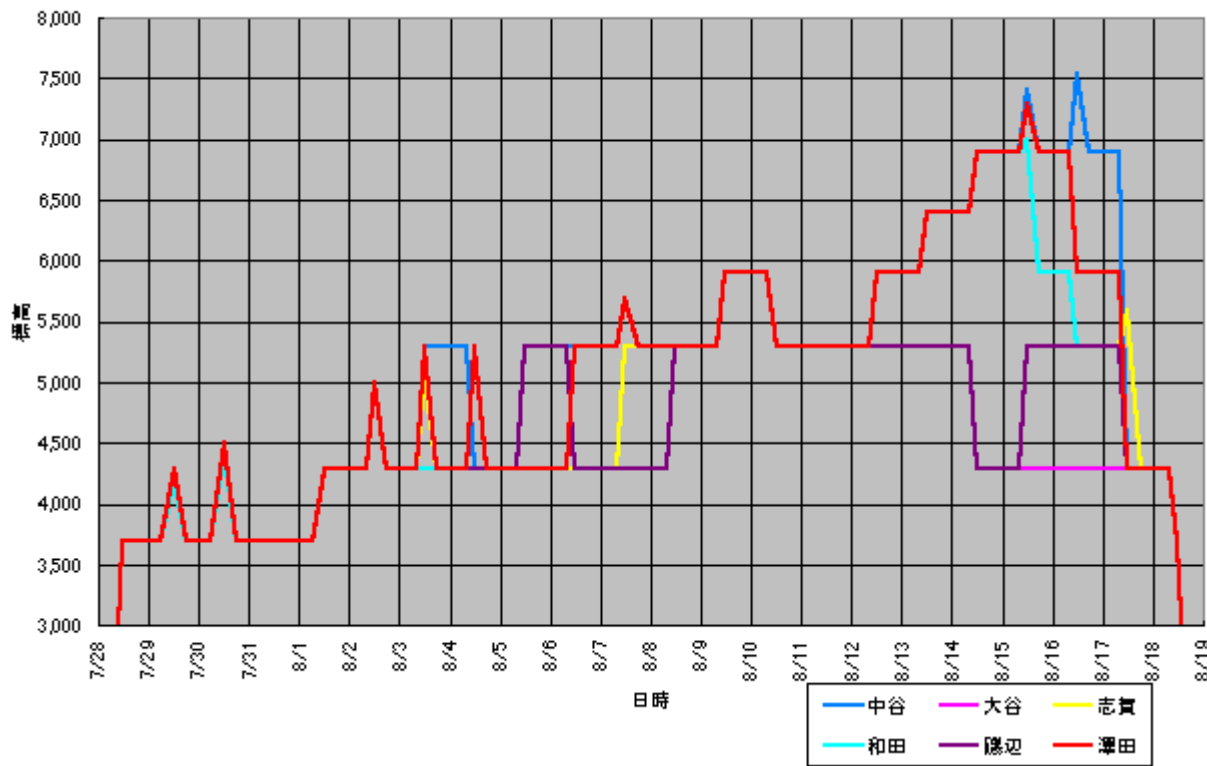


今日も 20:30 頃からC1へ向って高度で 100m だけ順化に出かける。

さあ明日からはC1だ！



行動実績



第3部:C1入り！

8月2日(日) 晴れ C1往復(BC-5000m)

全員:BC-5000m 間往復

7:30 起床。心配していた高度障害も出ていない。

このBCにはトイレがある。トイレと言っても簡単なもので地面に穴が掘ってあって周りに高さ1mくらいの鉄の囲いがあるだけのものである。キジ撃ちにはここへ行くことが決められているのだが、まだまだ順化が進んでいない我々にとってはキジ撃ちも大変である。

キッチンテントで朝食をとり、9:30C1へ向けて高度順化に出かける。

今日もペースが上がらない。5000m 手前辺りから天幕場のように整地された場所が点在し、C1のある 5300m まで続いている。おそらく年によっては雪が多く、C1を下げなければいけないのだろう！

今日のリミットである 15:00 となる。現在の標高は 5000m！ 今日はこちらまでとし、BCへと下山する。

BCへ下山してトラブルが発生する。我々は4日にロバを使ってC1へ荷上げする予定であったが、4日は他の隊が大量にロバを使う為に我々の使用できるロバが居ないと言うのである。

仕方が無いので明日荷上げを行なうことにし、大至急で梱包作業を始めるが結局個人の荷物にまでは手が回らずに明日の朝行なうことにして 23:45 に寝る。

この頃から雷が鳴り出しヒョウが降る。



8月3日(月) 晴れ C1荷上げ(BC-C1)

中谷:BC->C1

磯辺・澤田:C1往復

大谷・志賀・和田:BC休養

7:30 起床。朝食を済ませ、昨夜できなかった個人分の荷上げ荷物のパッキングにとりかかる。山を見上げるとC1 辺りは昨晚のヒョウは雪だったようで、C1から下にも雪が積もっているのが見える。

今回の荷上げ隊(C1で荷上げロバを待ち受ける係)は、中谷・磯辺・澤田の3名であり、10:00 出発の予定である。

気が付くと既にBCの周辺には荷上げ用のロバが集まって来ている。ロバは 11:00 集合 13:00 出発の予定ではなかっただろうか？

10:17 荷上げ隊出発。とりあえずゆっくりペースで進むが、無線で 11:15 にロバ隊が出発した旨の連絡をもらい、追いぬかされるわけには行かないこともあって、BC入りで苦い経験をしたにも関わらず、今回もペースを上げざるを得なくなる。

追いつがるロバ隊はどんどん近づいて来るが、5000m 地点で止ってからはなかなか上がって来ない。我々はなんとかこの間にC1へたどり着くことができ休憩していると、ロバ工の親方達3名が上がってくるのが見える。

え？トラブル？？ ロバエが言うには、「我々が待っているところは 5300m 地点よりも高いところなので、追加料金を払わなければ荷上げはしない！」と言うのだ。

これには非常に困った。我々の高度計を見せるが納得しない。仕方が無いので無線を使ってBCのアダラットさんにウイグル語で交渉をしてもらう。1Hかかって何とかロバエに納得してもらうことができ、我々の荷物は無事C1へ到着する。

キルギス人と話しをするには、中国語よりもウイグル語の方が良いようである。

この間にすっかり身体が冷え切ってしまった。しかも小雪も舞ってきて非常に寒くなっている。

今夜中谷さんが荷物番の為にC1に泊まると言うので、早速C1に天幕を設営する。

時間も押しているのに、今日はC1用の大テントや荷物テントは設営しないこととなる。

磯辺・澤田の両名は、16:45BCへ向けて下山する。18:20BCに到着するが、未だにロバの支払いの件でもめている。

最終的には1kgあたりUS \$1で決着するが、少々高くついてしまったようである。

ちょうどこの頃、BCには遭難のニュースが入ってくる。

NZ隊のアメリカ人がC2の上のクレパスに落ちたと言うのである。

夕食後連絡官から、遭難した方は残念ながら亡くなったと言うことを知らされ、クレパスは怖いものだなあと、つくづく思い知らされる。



8月4日(火) 晴れ C1往復(BC-C1)

中谷:C1->BC

大谷・志賀・和田・澤田:C1往復

磯辺:BC休養

7:30 起床。C1の中谷さんと交信すると今日のC1往復組と一緒にBCへ下りると言う。

大谷・志賀・和田・澤田の4名が高度順化の為にC1往復。

明日のC1入りを前に、全員がC1を経験する必要があり、9:22BCを後に 200m/h ペースでC1へと向かう。

15:00C1到着。C1は昨日に比べかなり雪が減っていた。

既に中谷さんが居住用の大テントと荷物用のテントの設営を終わらせ、荷物の移動も済ませ、熱い紅茶を用意して待っていてくれた。

1H程休憩し、全員で下山する。

BC到着後、山塾隊の方々がキッチンテントに訪れたこともあって、本日は王さんの餃子を囲んで合同夕食会となった。

BCではこの頃から雷が鳴り出し、大粒のヒョウが降り出す。

夕食後明日の予定が発表された。

明日のC1入りは、中谷・磯辺・澤田の3名となり、残りの3名は1日休養をとった後C1へ上がることになった。

8月5日(水) 晴れ C1入り

中谷・和田・磯辺:BC->C1

大谷・志賀・澤田:BC休養

9:00 起床。朝起きるが調子が悪い。連日行動していた為に疲れが出てしまったのかもしれない。そのため今日のC1入りを見送り、明日残りのメンバーと一緒にC1入りすることとなる。どうも精神的に疲れているようである。

志賀さんは高度障害からか、顔がむくみパンパンとなっている。

今日のC1入りは中谷・和田・磯辺の3名となり、12:00に出発して行く。

明日C1入りしてしまうと、登山期間の終了まで下山してこれないような気がしたので、午前中に洗濯を行なう。昼食には日本から持ち込んだホットケーキを焼く。始めて日本から持ってきたサラダ油を使うが、中国のものと違って軽くて日本人好みのような気がする。

食後はのんびり天幕で昼寝を決め込むが、だんだん暑くなって眠れなくなる。

夕食には五目寿司を作る。C1へ行った隊員が聞いたら羨ましまれそうである。

23:30 寝るが、夜半から雷が鳴り出しヒョウが降り出す。後でC1に泊まった隊員から聞くと、雷がC1と同じくらいの高さで鳴っていて、いつ落ちるかヒヤヒヤものであったようだ。夜中にふと起きると雨となっている。C1は雪が降り続けているのだろうか？

8月6日(木) ガス 停滞

中谷:C1停滞

和田・磯辺:C1->BC

澤田:BC->C1

大谷・志賀:BC休養

朝起きるとBCはガスの中に包まれている。ガスの切れ間からC1を見上げると昨晚雪が降り続いたのか 5000m 付近から真っ白である。9:00 の定時交信で確認すると、C1での積雪は 10cm とのことである。

昨日BCに残ったメンバーは、本日C1入りの予定であったが、現在もなお降雪中とのことで、C1からは本日のC1入りは見合わせた方が良くと言ってくる。しかしこの先の日程を考えると今日C1入りしてしまわなければ上部キャンプへの荷上げが間に合わないこともあって、11:00 出発予定であったがしばらく遅らせて様子を見ることとなる。

12:30 に無名山塾隊がBCへ下山してきたので、登山道の積雪状況を聞くと、ルート上は雪があるものの特に問題はないとのことであった。

13:00C1と交信をし、この辺りの情報を伝え、最終的に私だけが一人で 14:00 出発でC1入りすることとなる。

14:00BCでも小雪がちらつくようになってきたがBCを出発する。

30 分も歩くと雪はかなりな量となり右側から横殴りで降ってくる。C1までの尾根はほとんど隠れるところが無い。仕方が無いので天幕場の跡地のあった 4900m 付近まで歩き続けることを決め、先を急ぐ。

天幕場の跡地に近づくと積雪は多くなり、足先が冷たくなっていく。もうトレッキングシューズでは限界のようだ！

ちょうどその頃、ガスの切れ間から中谷さんが降りてくるのが見える。

プラブーツを持って降りてきてくれたのである。

早速靴を履き替え、快適となった足元で雪を踏みしめながらC1を目指す。5000m に差し掛かった頃、本日BCに下山する和田さん・磯辺さんとすれ違う。

18:17C1到着。休憩無しで頑張ったせいか、少々頭が痛い。

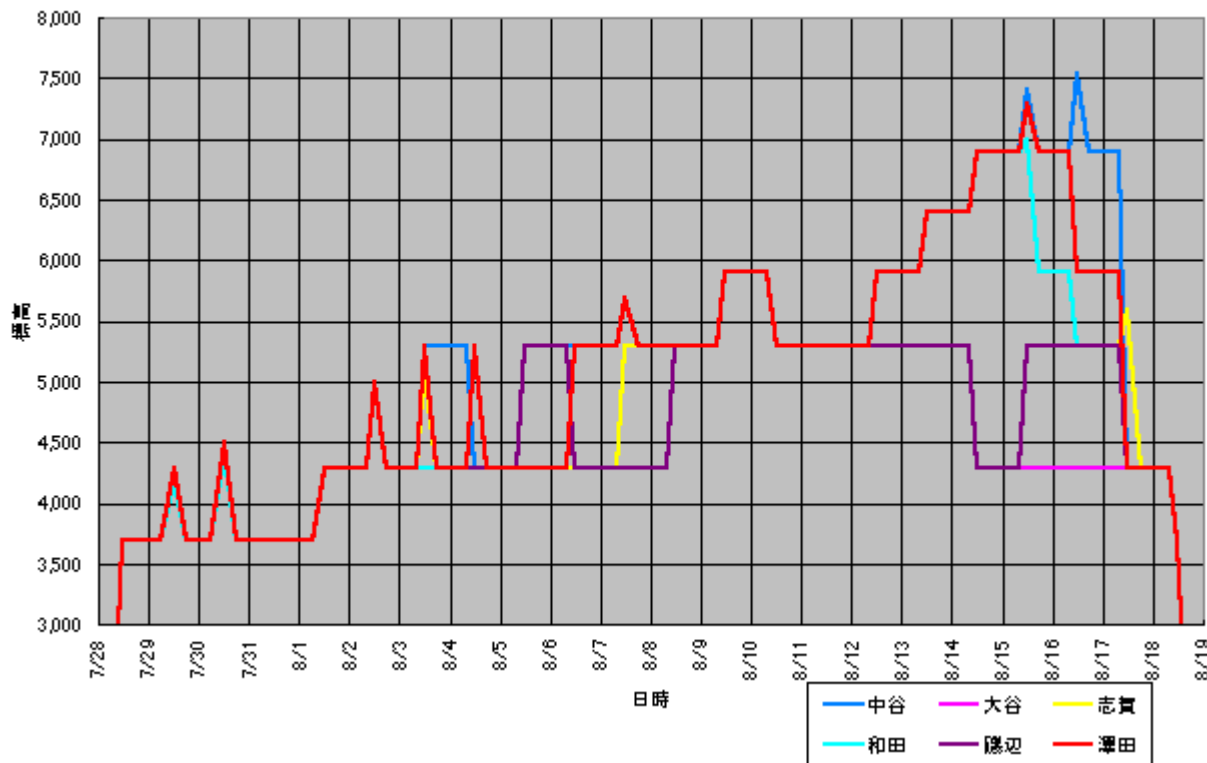
紅茶を飲んで横になっていると、栃木岳連隊の佐藤さんから煎餅の差し入れがある。

久しぶりの煎餅はとても美味しい！ 煎餅があればご飯は要らないのでは？ とも思えるほどである。

20:30 夕食を食べる頃にはC1周辺は晴れわたってくる。

さあ明日からはC2への荷上げが待っている！

行動実績



第4部:C2建設

8月7日(金) 晴->ガス->雪 C2荷上げ(C1-5700m)

中谷・澤田:C1-5700m 間往復  
 大谷・志賀:BC->C1  
 和田・磯辺:BC休養

8:00 起床。昨日降った雪がかなり積もってしまっている。  
 栃木岳連隊も、本日C2への荷上げとのことで、準備が始まっている。  
 我々も 10:30 アンザイレンで出発するが、予想通りのラッセルとなる。今日はアイスフォール帯を抜けることもあって、ワカンは持ってきていない。  
 C2へのルートは、C1上部のセラックのある斜面を登り、左側から回り込むように雪原を上がり、アイスフォール帯を抜け、C2への斜面を登って行くことになる。  
 天幕・コンロ・燃料・スノーバーを分担して持つが、1回目の荷上げで順化もできていないことや、思いの外ラッセルがきついこともあって、バテバテである。  
 前を歩く中谷さんはなかなか休憩をとってくれない。  
 かなり消耗している私は、アイスフォール帯の中の急登を登り切ったところでギブアップとなり、少し進んだところで荷物をデポして下山することとなる。  
 現在の時刻は 17:00。見上げると稜線上に先行していた栃木岳連隊のパーティーが休憩している。  
 荷物を埋めていると吹雪となる。先ほどまでは晴れて暑かったと言うのに！  
 引き返すには、ちょうど良いタイミングであったようだ。  
 荷物を埋め、急登のFIXまで下ってくると、栃木岳連隊のもう一方のパーティーと出会う。  
 下りは早い。しかし、ガスの為に 40m おきに立ててきたルート旗が見え隠れする。「この雪原で迷ったら帰れないなあ」そう思いながらC1へと下る。  
 18:30C1到着。  
 C1には既にBCより上がってきた大谷さん・志賀さんの両名が到着しており、20:00 より高度順化の為に1Hほど散歩に出かける。  
 ラッセルもあり大変な一日であった。  
 明日デポ地点まで登り、C2まで行けるのだろうか？  
 今夜は息苦しさは無いだろうか？  
 今夜は嫌に暖かい！



8月8日(土) 雪->晴れ 休養日

中谷・澤田・大谷・志賀:C1停滞  
 和田・磯辺:BC->C1

8:30 起床。風が強い。天幕には雪が吹き付けている。  
 昨日トレースを付けたルートは、もう雪の下である。またラッセルなのだろうか？  
 9:00 の定時交信では、BCの2名は本日C1入りすると言う。  
 9:30 朝食。とりあえず天候が回復するのを待つこととなる。  
 BC組は 10:00 出発。10:15 にコーヒーを上げてもらおうと無線でBCを呼び出すが、アダラットさんが出て「既に雨の中を出発した」と言う。  
 C1では停滞が決まり、コンロ2台で水作りにはげむ。

8月9日(日) 晴れ C2建設(C1->C2)

全員:C1->C2

7:30 起床。起きてすぐ4名が寝ている大テントへ行くが高いびき。

昨晚の降雪で天幕はかなり埋まっている。入口を開けるために入口付近を掘っていると、やっとのことで起き出す。

朝寝坊が祟って出発は 10:30 となってしまう。

今日は、A組: 中谷・志賀・和田、B組: 澤田・大谷・磯辺でC2建設へ向かい、1泊して帰ってくる予定である。アンザイレンで登りはじめるが、1ピッチで後から出発した無名山塾隊に追い抜かれる。彼らはクレパス帯までのこの区間、ザイルを付けずに歩いている。

我々のザイルは水を吸い凍って行く、40mいっばいに伸ばしてアンザイレンで歩くので、先頭の私は更にその重さが倍増される。

17:30 を過ぎ、やっとのことで一昨日のデポ地点に到着し、荷物を回収する。

C2まではまだ遠い。これから先にもヒドンクレパスは我々を待ち受けていることだろう。

重い足、重いザイルを引きずって、やっとのことで 5900m のC2に到着したのは 20:55。もうすぐ日没である。

先に到着したA組が、既に天幕1つの設営を終了している。早速私もザックから天幕を取り出し設営を開始するが、消耗が激しいせいなかなか進まない。

C2の高さは、私にとって初めての高度であるばかりか、今夜は泊りである。あまり無理をすると高山病が心配である。

その心配もよそに、疲れからか朝までぐっすり寝てしまう。



8月10日(月) 晴れ C1へ下山(C2->C1)

全員: C2->C1

9:00 起床。C2周辺は晴れわっている。とりあえず朝食および水を作る。

初めての高度での宿泊であったが、意外にも爽快な朝を迎えられた。

食後私物整理をすませ、天幕下の整地をやり直して、下山を開始する。

この頃にはC2から下はガスに包まれ、ガスの中へと下って行く。

クレパス帯へ下ってきた頃にはガスの下となり非常に暑い！ 単パンTシャツで歩きたくなるような陽気である。汗だくでクレパス帯を抜けると、C1はガスの中であった。

夕食の後、今後の予定が発表される。「明日は休養日、明後日6名全員でC2を目指す」と言うものであった。

今回のスピードを考えると、次回は4名で登るべきではないだろうか？

8月11日(火) 晴れ 休養日

全員: C1休養

C1入りして2度目の休養日となる。登山期間の短い我々にとっては、辛い選択である。

昨夜またしても降雪があり、C1周辺では 30cm くらい積もっている。BCでも3cm くらいの積雪があったようだ。

昨日の定時交信で、「明日休養日であればC1へ行ってみたい」と言っていたアダラットさんも、これでは断念せざるを得ない。

食料庫整理の際に、中谷さんに「4名でC2を目指すべきではないのか？」と言う話しをする。

昼過ぎ、C3建設に向っていた無名山塾隊3名が下山してきたので様子を聞くが、「雪が深くて 6500m 地点までしかルート伸ばすことができなかった」とのことである。

我々に残された日数はもうあとわずかである。

これでは登頂はかなり難しいのではないだろうか？

夕食後、今後の行動予定に関して変更が発表される。

「明日は、中谷・澤田の2名でC2へ向かい、明後日残りの4名でC2入りする。

C3建設は明日の2名で向い、そのまま1次アタックを行なう。

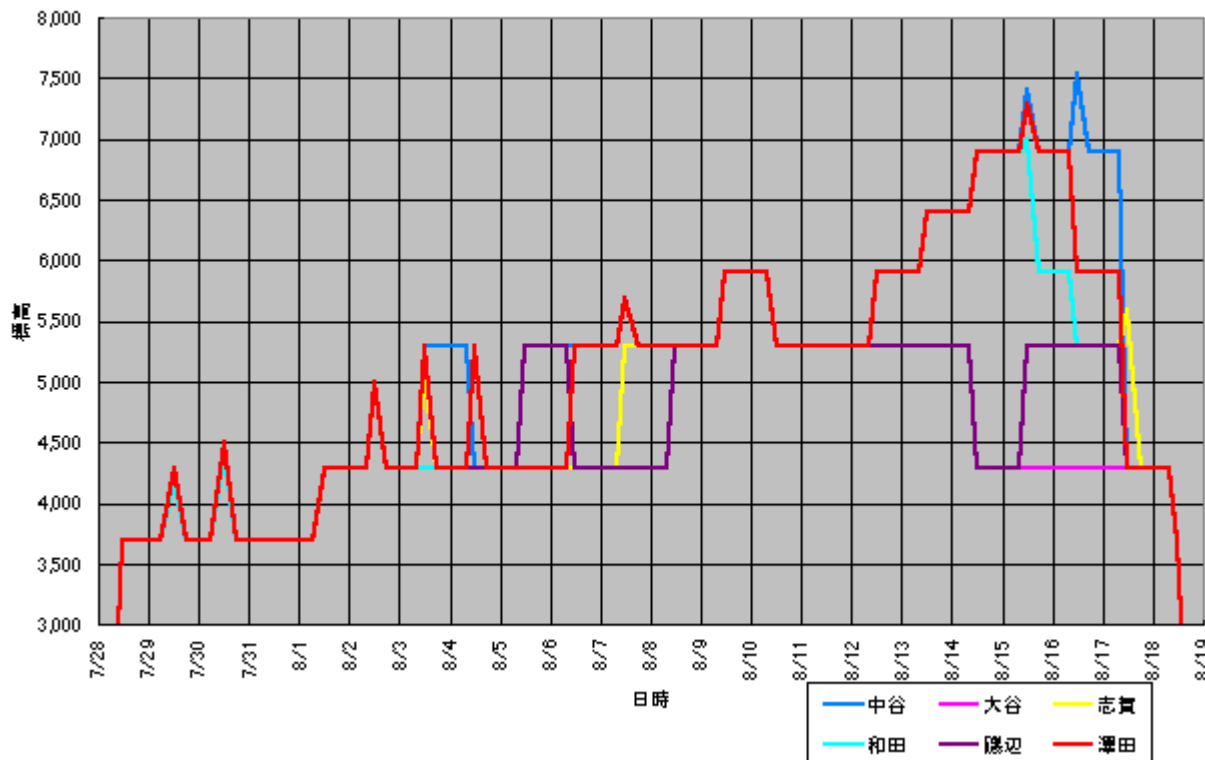
2次アタックに関しては、明後日出発する4名の内、体調の良い2名で行なう。」

と言うものであった。



これで私にも登頂のチャンスが生まれそうである。

行動実績



## 第5部: 山頂を目指す!

8月12日(水) 晴れ C2入り(C1->C2)

中谷・志賀・和田・澤田:C1->C2  
大谷・磯辺:C1休養

朝起きると磯辺さんが別人になっている。雪目だ!  
昨日の休養日に、雪転がしをして遊んでいたのが原因のようだ。  
他の隊員とは別のテントであった私は、出発の準備をすませて外で待っていると、中谷さんから突然「4名で行くことになった」と告げられる。  
なぜ?という疑問を解決する間もなく、荷物を分けて出発となる。  
今日は、A組:中谷・志賀、B組:澤田・和田のオーダーである。  
4人で行くなら分担荷物が減るので、重い大きな90Lザックを背負って行く必要もない! だが50Lザックに詰め替える時間はなかった。朝食の時にでも言ってくれば、準備のしようもあったのと思うが、今となっては仕方が無い。  
今日も辛い1日となりそうである。  
先行する中谷パーティーは、ラッセルをものともせず登って行く!  
私は重いザイルを引きずりながら、かなりバテバテでC2へ到着する。



8月13日(木) 晴れ C3へ(C2->6400m)

中谷・志賀・和田・澤田:C2->6400m  
大谷・磯辺:C1休養

12:18 出発。C3を目指すが高雪が深くてなかなか進めない。  
出発時のオーダーは、A組:中谷・澤田、B組:志賀・和田である。  
今日の仕事は、中谷さんとルート旗を立てて登ることである。  
ワカンを履いての登高は、昨日までの重いザイルを引きずっての登高とは違って気分的にも楽である。  
40m 間隔にルート旗を立てるのだが、中谷さんを先頭として、40m ザイルをいっぱい伸ばし、私が続く。そして私が中谷さんの立てたルート旗に到達する度に、上へ向かって「40」とコールし、中谷さんが新しいルート旗を立てる、その繰り返しである。  
C2上部にあるFIXを越え、奥に見える大きな丘を越えた辺りで、それまで遅れていた志賀・和田組を待って、パートナーの交換をすることになる。  
これから先は、この深雪の中をつぼ足でザイルを引きずりながら歩くのである。  
ここからのオーダーは、A組:中谷・志賀、B組:澤田・和田となる。  
昨日に続き、パートナーとなった和田さんの足取りは重い。何となく高度障害の兆候が出ているように感じられてならない。  
歩き始めてすぐにワカン組からは引き離されて行く! 頑張って前に進もうとするが、深雪でスピードは上がらない。頑張らなければいけないところだが、頑張りすぎによる高山病も怖い!  
21:24 現在の標高は6400m!  
そろそろ暗くなるので天幕を張り泊まることとなる。  
天幕の中では今後のことについて話し合いがあった。  
私はここ(6400m 地点)で1泊したことによって、食料や燃料の予備が無くなってしまうことから、ここから先は2名で行くことを主張したが、最終的な中谷さんの決断は「C3へは3名で向かう。和田さんにはC2に下りてもらい、BCへ通じにくくなっている無線の中継をしてもらう。」と言うものであった。  
ああ! 明日はワカンがなくとも重いザイルを引きずって歩くことからは開放される!

8月14日(金) 晴れ->ガス C3入り(6400m->C3)

中谷・志賀・和田・澤田:6400m->C3  
大谷・磯辺:C1->BC

朝起きるとまた新雪が積もっている。  
6400mに泊まったが、私は今のところ不調が出ていない。  
昨夜3名でC3を目指すことが決まったが、朝になって和田さんが「なぜ俺だけ下らなければ行けないのだ!」と言出し、同行することとなる。隊長としては、一人で下らせるのも危険だし、一緒に行っても何とかできるのではないかと判断したようである。  
しかし無線の中継はどうするのだろうか?  
私には、和田さんの体調はあまり良さそうには思えない。  
今日のオーダーも昨日に引き続き、A組:中谷・志賀、B組:澤田・和田となる。  
今日もまたザイルを引きずって、アイゼンでつぼ足で歩くのである。しかも天幕を担いで!!  
ワカン組とは歩きに圧倒的な差がある為、歩き出してすぐに差がついてしまう。  
何時間歩いたのだろうか? ガスもかなり出てきて、先行する中谷パーティーが見え隠れする。  
6800mくらいにはなっただろうか? 和田さんの状態があまり良さそうではないので、あまり引き離される前になんとかしたかった私は、中谷さんを無線で呼び出すのが無効!  
仕方無しに大分近づいた時にホイッスルを吹くが、風にかき消されて聞こえない様子でどんどん登って行ってしまふ。  
そうこうする内に、6900mのC3設営地点まで着いてしまふ。  
既に中谷さんと志賀さんによって、天幕設営場所の整地は終わっていた。  
私が到着するとすぐ、ザックから天幕を取り出され、C3の設営にとりかかるが、やはり空気が薄いのかC2設営時以上に息が苦しい。  
やっとのことで天幕の設営を終え、天幕に入ると別世界である。  
テントの中は、魔法の空間だ!  
たっぷり砂糖の入った紅茶を飲むと、身体の芯からポカポカしてきて、生き返った心地である。  
この高さまでくると、固形物はなかなか喉を通らない。  
夕食は、スープと少しばかりのお粥を腹に詰めるのがやっとなのである。  
今日もかなり消耗してしまっただが、明日はアタックできるのだろうか?  
天気は? メンバーは?  
ワカンを履いてここまで登ってきた志賀さんが、「俺は明日ワカン無しで良いから!」と言ってくれる。おそらく私を登らせようと気をつかってくれたのだろう!  
夕食後、中谷さんから明日の行動についての発表がある。  
「明日は、4名でアンゼイレンしてアイゼンで歩く!」と言うものであった。

この積雪量を考えると、4人でアイゼンだけでラッセルしながら歩いたのでは、登頂はかなり難しいのでは？と思いながら寝る。シュラフに入ると思いのほか暖かで朝までぐっすり眠ってしまう。  
「今日のラッセルはしんどかった！！」

8月15日(土) 曇り->雪 一次アタック

中谷:C3->7450m->C3  
澤田:C3->7300m->C3  
志賀・和田:C3->7000m->C2  
磯辺:BC->C1  
大谷:BC休養

7:30 起床。外はまだ暗い。シュラフを畳む動作も息苦しい。今日はついにアタックである。和田さんは皆が支度を終えてもまだ起きない。昨日に増して具合は悪そうである。スープだけの簡単な食事を済ませ、9:30C3を後に頂上を目指す。今日は、中谷・志賀・澤田・和田の順にPPロープでアンザイレンしてアイゼンで歩く。この深雪で、なぜワカンを使わないのだろうか？ 非常に疑問だ！どのくらい歩いただろうか、胸くらいの深雪に先を阻まれる。ここで私が前に出てピッケルで強引に押し潰して進む。その直後である。皆が和田さんの異変に気が付く。完全に高度障害が出ている！私が下ろすことになるのかなあ？ でもこうなってしまうとは、私の言うことは聞かないだろうなあ？ と思っていると、志賀さんが「俺が下ろすから2人で行け！」と言ってくれ、よろよろ歩く和田さんを連れてC3へ下って行った。残された我々はアンザイレンをといて歩くことになる。中谷さんから「PPロープを持って行け！」と言われ、私が背負って行くことになる。今更何の為に必要なのだろうか？デポして行けば軽いのに！ここから中谷さんが20mおきにルート旗を打ち、私が2~3本分引き離されて歩く状態が続く。かなり苦しい。ルート旗1本分すら続けて歩けなくなってくる。数歩進んでは止まってゼイゼイ言うことが続き、ついには座り込んでしまう。陽が出ていて暖かい。このまま寝てしまいたいくらいである。しばらく座っていたが、頭の中では「俺は登頂する為に頑張ってきたのではないか！ 色々な人の支えがあってここまで来たのだ！ さあ歩こう！」もうそれだけが支えである。ここからはしばらく挫折することなく順調に歩き続けるが、気が付くとガスが濃くなってきて2~3本先のルート旗が見えなくなってくる。そんな時である。サングラスがずれたので指で上げるが直らない。仕方がないので外して見るとツルのところのネジが無くなっている。前にも山行の際に外れてしまったところである。このままでは進めないの、とりあえずツェルトを出して休憩し、ザックの中から吹雪に備えて持ってきたゴーグルを取り出す。既に14:40である。ゴーグルをかけツェルトから頭を出す、更にガスが濃くなったのか上も下も真っ白で戦力を削がれる。「もう少し良くなるのを待って」と思っていると、30分くらいとうとしてしまう。ここは7300mであるのに！！もう中谷さんには追いつかないだろう。雪もかなり降ってきて、登ってきたトレースも無くなっている。どうするか決め兼ねていたが、既に15:30を過ぎてしまったので、1人でC3へ下りることにする。私の無線機は具合が悪くなって下りて行った2人に渡してしまったので、中谷さんとは連絡がつかない。1人で下山を開始するが、下りでもかなりなラッセルを強いられる。中谷さんはどうしているのだろうか？ガスの晴間からやっとC3が見えるようになるがなかなか近づかない。やっとのことでC3に着き、上を見上げると中谷さんの姿が見え一安心する。天幕の前に座るとなぜか涙が止まらない。「ここまで来たのに俺は山頂に立つだけの力が残っていないのか？ ちきしょう！」(澤田:記)

二人が下山後、上部はクレバスも無さそうなのでアンザイレンを解き、ポールをザックに仕舞いながら覚悟を決める。なんとしても山頂にリコー旗を立てなければ！ 行ける所まで行ってみよう。相棒には悪いが、後ろを振り返らずラッセルを続ける。一旦傾斜が緩み、山頂を期待したが再び傾斜が増す。ガスが濃く、平衡感覚が怪しくなり不安になってくる。コンパスで方向を確認したり、雪面にストックで線を書いてバランスを取り戻す。そのうちピンクの標識ポールを使い果たし、残り赤旗25本となる。17時半、ついに残り2本。C3から40mピッチで50本のポールを打ってきたので、そろそろ山頂付近に来ている筈だが、ホワイトアウトで全く視界が利かず、現在位置が確認できない。北西の風も強く、踏跡も埋まってしまうので、標識無しで先へ突っ込むのは危険と判断し登頂を断念。最後になるかもしれないので、リコー旗をピッケルに結んで写真を撮り、C3へ下山する。(中谷:記)

その晩中谷さんから「明日天気が良ければもう1度行こうと思っている」と言う話があるが、私にはどうやらもう1度アタックするだけの体力と精神力は残っていないようである。2人がもう1泊するには食料も心許無い。燃料もあまり残っていない。今夜はポテトサラダ半分とスープを腹に入れ、シュラフに潜り込む。(澤田:記)

8月16日(日) 晴れ 2次アタック

中谷:C3->山頂->C3  
澤田:C3->C2  
志賀・和田:C2->C1  
磯辺:C1休養  
大谷:BC休養

テントを叩く風の音で目覚める。吹雪いていたら下山しよう。撤退の理由を探しながら、シュラフの中から手を伸ばし、コンロに火を点ける。固形物は喉を通らないのでスープを飲み、テントの外へ顔を出し様子を見る。なんと晴れている。明後日はBC撤収日なので、今日が最後のチャンス。相棒に、行くか？、下りるよ。6200mのC2を出てから4日目、高度の影響による疲労も限界に近い。お互いに、自分の行動に責任を持つことを確認し、単独となるが別行動とする。ルートは上も下もトレースが埋まり、標識ポールの旗だけが雪面に出ている。昨日はアイゼンでのラッセルに苦労したので、ワカンを履いて行くことにする。何となく悲壮感が漂うなか、お互いの無事を祈って分かれる。11時出発。昨日つけた標識ポールに沿って登るだけだか、10歩行っただけで一休みのペースで、ラッセルはなかなか進まない。透明な空気の向うに、雪原が広がっているだけで、日本の山と何も変わらないのに、全身脱力感でとても疲れる。まるで、目に見えない毒ガスでもあるのではという錯覚すらしてくる。ゴアテックスでできたダブルの手袋の上に羽毛のミトンをはめているが、偏西風が吹き付ける右手が冷たい。時々、ガスが流れて来る。晴れが続くことを、声に出して祈りながら登り続ける。その甲斐もなく、ガスの中、昨日と同じ時間に最後の標識ポールに着く。落ちて雪面を観察すると、傾斜がさらに緩くなっている。山頂の雪原に間違いないと判断し、最後のポールを抜いて、そのまま登り続けた。しばらく行くと、突然ガスの中に黒い固まりが二つ見えてきた。おう、HAJで聞いていた山頂の岩だ！



ワカンのまま、その上に登って周りを見回す。ここが一番高い。18時40分、もう登らなくてもいい。風で踏跡が消されるのが恐いので、ゆっくりはしてられない。リコー旗を取り出し、セルフタイマーでGR-1のシャッターを切る。3枚撮った記憶しかないが、後でみたら7枚も写していた。無線はC2から上では通じなかったが、一方的に、登頂の報告を送信してから山頂を後にする。消えかけた踏跡を拾いながら、ポールに戻ることができた。これで生きて帰れる。テルモスのお湯を飲み、一息ついてから下る。約3時間後、暗くなる前に何とかC3に帰り着く。C3にはアメリカ隊のテントが2張り増えていた。人が居ると安心だ。食料のドライカレーはとても食べる気になれず、雪を溶かしてウドンのスープだけ飲んで、シュラフに入る。(中谷:記)

「俺もう1度行くけど一人でC2へ下れるだろう!」「はい」「今夜は多分C3泊りになると思うから」「.....」

私のできることは一緒に登ることでは無い。

既に体力の落ちて来ている私は、食料の乏しくなっている現状と、中谷さんの下山の為にトレース付けを行う必要があることを考え、登頂は諦めてC2へと下ることを決意する。

11:00 出発。中谷さんは朝日の輝く中を山頂へと向かう。

私は中谷さんの後ろ姿を見ながら、これでひょっとすると会えなくなるような不安を感じる。

下山もまた容易ではない。空気も薄く既にC3に2泊した身体ではヒドンクレパスに気をつけるだけで精一杯である。天気が良いので、気晴らしに写真を取りながら下山する。コングーンが綺麗である。

途中、6400mにデポしたザイルを回収した頃には、この日C2から出発した他隊のパーティーとすれ違う。

C2が見えてくる。雪がダンゴになってアイゼンについてとれも重い。8月初め頃この先のクレパスに人が落ちて死んだと思うと、足取りも慎重にならざるを得ない。1人なので落ちて誰も見つけてはくれないだろう...

16:00 やつとのことでC2へ到着する。

デポ品を回収したり、栃木岳連隊の人と無線の件で話しをしたり、無名山塾隊の人に食料をもらったりと、かなり寄り道が多かったが、それにしても時間がかかってしまった。やはり疲れていたのだから!

中谷さんとの約束で、C2を撤収して下りることになっていたが、天幕の入口を開けると、中には酸素発生器・コンロ等などの装備がいっぱいある。「今日全て背負って下りるのは苦しいなあ.....」

BCと話しをする為に、スイス隊へ行き無線機をお借りする。

天幕を置いて行くな、私の無線機も置いて行って欲しかった!

BCとの交信の結果、本日C1を撤収することがわかり、私がC2を撤収して下山しても一気にBCまで下りなければいけないことがわかる。

中谷さんが今夜C2へ下りてくる可能性もある。

何かあれば私がC3へ行かなければいけない。

色々なことを考えたあげく、今夜はC2泊りにすることを決める。

疲れきった中での天幕生活は苦しい。一人なので何もする気がおきない。

そんな時、隣に天幕を張っていた栃木岳連隊の梅山南峰隊長さんから、夕食を一緒にとろうと言う誘いがあり、ご馳走になる。ありがたいことである!

この晩の出来事である。天幕で一人で寝ていると、天幕の外から足を叩く感じがして飛び起きる。中谷さんが下りてきたのか? 時計を見ると0:20! ヘッ電を点けて下りてくるとは思えないが、天幕のチャックを開けて身を乗り出して辺りを見回すが誰もいない。え? 今のは何だったのだろう??

朝になって気が付いたのだが、入口に付けたR旗が風でばたついて入口を叩いたのかもしれない!(澤田:記)

8月17日(月) 晴れ BCへ下山

中谷:C3->BC

澤田:C2->BC

志賀:C1->5600m->BC

和田・磯辺:C1->BC

大谷:BC休養

C2:9:00「澤田さんBCから無線が入りましたよ!」の声に起こされ目を覚ます。

栃木岳連隊の無線をお借りしBCと交信したが、未だ中谷さんからの連絡はないとのことである。

今日は天気が良い! 栃木岳連隊のテントで朝食をご馳走になる。

10:30 栃木岳連隊のC3へのパーティーを見送り、自分が昨晚泊まった天幕を畳み、パッキングを始める。荷物は思いの外大きい。90Lのザックは満杯で入りきれない!

12:00 無名山塾隊に下山の挨拶に行き、無線を借りてBCに下山する旨を連絡する。

BCからは「C1から志賀さんが荷下げの為に迎えに出た」と言う連絡をもらう。

さあ出発! いざ荷物を背負おうとするがかなり重い! 30kg超であろうか?

12:30 栃木岳連隊の梅山南峰隊長さんから「本当にそれ背負って下山するの? 気をつけろよ!」との声に送り出されて下山を開始する。

6000m近い高度、下にはクレパスが口を開けている! 一步一步慎重に歩かなければ命取りである。

FIXが張ってある個所ややばそうな個所では、その手前で息を整えて「落ちないぞ! 大丈夫だ!」そう自分に言い聞かせて慎重に越えて行く。

クレパス帯の急なFIXのところまで来て下を見ると、志賀さんが登ってくるのが見える。

「助かった! これで少し楽になる!」

ちょうどその時である。志賀さんが持っていた無線機からBCと中谷さんの交信が聞こえてくる。ここで始めて昨日登頂し、現在下山中と言うことがわかり、一安心する。

登頂して、しかもC3に3泊も泊まったことになる! 凄い人だ!

FIXを下りきったところで志賀さんに荷物を分けると足取りも軽くなる。

リコー隊のC1は昨日ロバで荷下げしてしまっているので何もない。C1周辺の雪も、上部キャンプへ出発する頃に比べてかなり減っている。

C1に到着し、山を見上げていると「これで終わりか? 力及ばずで登頂できなかったなあ!」そう思うとポロポロと涙が止らない。(澤田:記)

C3:隣のテントの炊事の音で目が覚める。

朝を迎えることが出来たことに感謝する。

水分のみ補給して、下山の準備に取り掛かる。

今朝も9時の定時連絡に、行動予定を一方的に送信する。

好天期に入って、今日も晴れている。

山頂へ向かうアメリカ隊がシールで出発するのを見送ってから、ワカンで下山を始める。

雲の影が点々と写っているパミールの広大な高原を、見下ろしながら下り続ける。

C2上の斜面が近づいたところで、無線でBCを呼び出すと、アダラットの元気な声が飛び込んで来る。5日間連絡が取れなかったのが、心配していたようだ。

皆の無事を確認して、ほっとする。

仲間の声を聞いて、気が緩んだのか、ヒドンクレパスにビクビクしながら下る。40mピッチの標識ポールの間で一回休まないと歩けない。消耗のし過ぎだ。

もっと食わなくては。

C2が見えてくる。無名山塾隊、栃木隊の隊長さんが迎えてくれる。握手の手が暖かい。

ホットポカリスエットをご馳走になり生き返る。健闘を祈って、C2をあとにする。

セラック帯の出口のフィックスを懸垂で降りて、ヨタヨタ下り続ける。



追い越して行ったスペイン隊が、アンザイレンして一緒に下ろうと誘ってくれる。彼らのペースには付いて行けそうも無いので辞退したが、素性の分からない東洋人に親切にしてくれる気持ちが嬉しかった。

17:45にC1着。

志賀、澤田の両氏と再会。C1撤収に上がって来ているロバに荷物を預けて、重荷から解放される。住み慣れたC1もテントが片付けられ、気の抜けた感じだ。センチメンタルな気分で、もう来ること無いであろうC1を後にする。(中谷:記)



18:00C1を後にBCへ下山を開始する。

登る時には気がつかなかったが、道の脇には花も咲いている。

疲れからかヨロヨロしながらBCを目指す。

BC手前の小川で、数日ぶりで顔を洗い、「しゃっきりしなければ」と思いながらBCへ下りる。



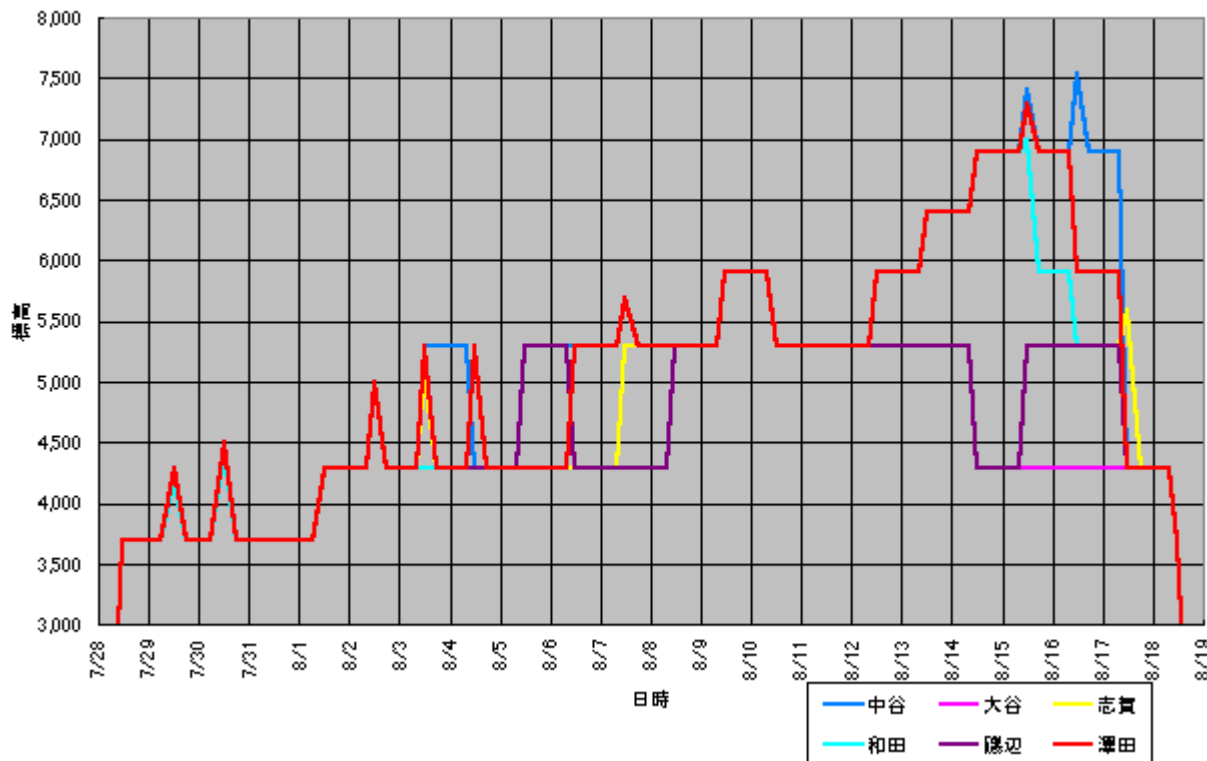
21:00BC到着。BCで待つ全員から盛大な出迎えを受ける。

この夜は、王さんが作ってくれた餃子でパーティーが開かれた。

ここまで禁酒していた私も、今日で登山が終了と言うことで、4300mと言う高度を忘れ、缶ビールを3本も飲んで盛り上がりすぎてしまう！

今日で登山活動は終了である！

行動実績



第6部:BCをあとにして

8月18日(火) 晴れ カシュガルへ(BC->スバシ->カシュガル)

8:45 大谷さんに9時から朝食と言われて起こされる。久しぶりのBCの朝！ 昨晚飲みすぎたせいか頭が痛い。昨晚の餃子が朝食のメニュー。贅沢を言えば焼餃子が食べたいものである。  
10:00 梱包開始。しかし疲れからなのかなかなか進まない。個人装備の梱包が早く終わった磯辺さんと私で共同装備をバンバン梱包していく。出発予定は13:00であるがラクダは既に来てしまっている。  
12:30 やつとのもので下山の荷物がまとまる。すぐさまラクダに積みはじめるが、ラクダは6頭！ 荷物は、R箱13+大型ザック6+中型ザック3+その他色々、かなりな量である。  
13:30 ラクダ隊出発。他の隊の人達に見送られ我々も出発する。  
今日はスバシまで自由に歩く。私は1人静かに歩きたかったこともあって、他の隊員と離れて、王さんと2人で足早に下って行く。  
15:30 スバシ到着。登山協会のバスは既に迎えに来ている。  
スイカをご馳走になり、短パンTシャツに着替えサンダル履きとなる。  
ああこれで本当に終わってしまったのだなあ！  
16:15 ラクダ隊到着。トラックに荷物を積み替えてスバシを後にカシュガルへの帰路につく。  
車窓から見た地平線に沈む夕陽とひまわりが、この旅の終わりを告げているようであった。  
この1ヶ月でカラコルムハイウェイの様相は一変してしまった。いたるところで土砂崩れがあり、荒れた道路を乗り越えるたびにバスは大きく揺れる。行きに見た温泉の周りも岩だらけで人影はない。  
23:00 カシュガル到着。ホテルで遅い夕食をとり、明日日本へ送らなければいけない荷物を整理する。ベットに入ったのは2:00であった。  
いや～！それにしても久しぶりにシャワーに入ったら垢が出る！出る！ 幾ら擦っても全く終わりが無い！



8月19日(水) 晴れ 荷物整理

9:00 起床。朝食をとり登山協会へと向かう。今日は荷物整理の日である。  
郵便小包で送り返すもの、各人背負って帰るもの、登山協会に寄贈するもの、処分するものへ分ける作業を行なう。  
まず天幕を乾かすために庭に並べるが、見るからにテントのセールのようなものである！ それを見た登山協会の人から事務所から下りてきて、「テントをいくつか売ってくれないか？」と言う。  
郵便小包は全部で9個となった。重量は12~15kgぐらいだろうか？ 郵便局へ持って行くが、書類の書き方がわからない。英語の書類も用意して欲しいところである。  
小包の費用は、15kg でだいたい290元(約6000円)であった。本当にこんなに安くて着くのだろうか？ 2ヶ月くらいかかると聞いているが.....  
(この荷物は約1ヶ月で到着した)  
今夜はカシュガル最後の夜なので屋台へと繰り出すことになる。  
シシカバブー・ビールなんでもありである。  
屋台を一回りして帰ると言う皆と別れ、私と王さん2人でもう少し食べ歩く。  
ここで食べ過ぎたのが悪いのか？ この日を境に下痢となり、次の日からの移動が苦痛なものになってしまう。  
しかし2人で繰り出したおかげで、王さんからは色々な話を聞くことができた。  
漢族・ウイグル族の話に始まり、食べ物の違いの話となったところで、王さんから「実は皆が居る時はアダラットさんがイスラム教なので豚を出さなかったが、自分達だけの時はBCでも豚肉を食べていたんだ！」と言う話になり、私が日本のトンカツの話をしたところ、豚を食べに行くことになり、近所のレストランへと移動する。  
王さんからは私が登頂できなかったことに対して、色々とお励ましの言葉をもらった。  
「チャンスがあればまた一緒にやろう！ 今度はきっと登れるよ！」この言葉が今でも印象に残っている。



8月20日(木) 曇り->雨 カシュガル->ウルムチ

今日はカシュガルからウルムチへ飛行機で移動する以外は予定がない。

飛行機はいつもながら夜発のもので、21:20 出発である。

昨日までの疲れもあるのでゆっくり起き、午後から観光に出かける。

APPAK HOJAM'S TOMB、バザールと行くが、もう既にネタ切れである。

最終的にはホテルへ帰って昼寝！ やはり皆疲れているようだ！

20:00 ホテルを後に空港へと向かう。空港はかなりごった返している。

これで国内線に乗るのは3回目であるが、どこへ行っても英語のアナウンスが無く(聞き取れないだけかもしれない)、1人で歩いていたら乗れるのだろうか？と思うことが多々ある。

今回もスポレフが止っている。21:20 発の予定であったが、全員乗り込んだのか？21:00 には飛び立ってしまう。何といい加減なのだろうか？ それだけ空が混んでいないということかもしれない。

隣の席に岩手医大山岳部の人が座ったこともあって、ウルムチまで延々話し込んでしまい、あっという間に着いてしまう。

22:30 ウルムチ着。今夜は雨である。市内も渋滞している。



8月21日(金) 雨 ウルムチ滞在

このところの異常気象の影響か？今朝も雨が降っている。今日は買い物&温泉と言うことでのんびり過ごす予定である。

体調の良くない大谷さんは、午前中にアダラットさんに付き添われて近くにある新疆ウイグル自治区人民病院へ診察に行った。言葉の通じない国では、病院に行くのも大変である。

午後はお土産を買いに街へと出かける。

この土地の物と言えば、夜光杯とシルクの絨毯だろうか？

シルクの絨毯でも買えれば最高だが、良いなあと思う物は数十万から数百万もする。

帰りに新疆ウイグル自治区人民病院に立ち寄る。病棟がいくつもあるかなり大きな病院であるが、一歩病棟に入ると中は薄暗い。日本の病院も昔はこうだったのだろうか？

天気も悪く、疲れもあったので、結局温泉へ行くことなくホテルでゴロゴロして過ごしてしまった。

今夜はホテルの売店で買った3元のビールを飲んで寝る。



8月22日(土) 晴れ ウルムチ -> 北京

8:30 出発の予定であったが、朝寝坊してしまい 8:00 に起きる。

こりゃ～朝食は抜きかな？と思いつつ、慌てて準備をしてロビーへ下りる。

今朝は昨日までの天気と違って晴れている！

既に空が高くもう秋である。

9:15 空港に到着するが、相変わらずごった返している。チェックインを済ませ待合室に行くと既に搭乗が開始されている。

バスに乗りスポットに着くと、何と待望のイリュージン(IL-86)が止っているではないか！！

胴体下にある一番前の入口から入り、階段を上がって行くと客席がある。

席について辺りを見回した感じはトライスターのようであった。

各シートの背にエアダクト(どうも電動ファン)が付いていることが特長だろうか？

こんな飛行機動くのだろうか？と思っていると、定刻 10:05 北京へ向けて動き出す。

13:30 北京到着。CMAの趙さんが出迎えに来ている。

早速CMAのバスでホテルに向かうが、道路混雑の為にかなり時間がかかってしまう。

1ヶ月前に北京に来た時は感じられなかったが、山から下りてきたせいなのか？はたまたカシュガルの風景に慣れてしまったのか？北京が嫌に都会に見える。バスの窓越しに見る風景にも懐かしさを感じる。

今夜は、HAJ・信州大・リコーの3隊での合同夕食会が催される。

夕食会は早めに終わったが、明日は 6:00 起きで出発と言うこともあって、中国最後の夜であったがおとなしく寝る。

ホテル向かいの売店で売っている缶ビールは4元であった。



8月23日(日) 晴れ 北京 -> 東京

5:30 に目が覚める。北京の朝方は 20 年くらい前の日本の空のように、工場の灯かりが映るのか？空が異様に赤い。

6:15 に1Fのレストランへ行くが、従業員は朝礼中！ こんなことで食事を済ませて 7:00 に出発できるのだろうか？

7:00 ホテル出発。道は日曜日の為かそれほど混んではない。しかし朝早いと言うのに通りには人々！ 凄い数である！

空港には 7:40 に着いたものの、空港内は凄い人の数である。早速国際線の空港使用料90元を払って中へ入る。

心配していた荷物の重量超過の件は、空港が混んでいたせいなのか？全く重量をチェックしている様子はない。

やっとチェックインを済ませたかと思うと、今度は出国カウンターが大混雑である。どうしてこんなに人がいるの？と思いたくなるくらい、5～6個所の入口に人が押し寄せている。しかも列になっていないのである！

30分くらいかかっただろうか？出国カードを持っていた私は、皆より一足先に出国手続きを済ませることができた。

さあゲートへ急がなければ、出発時間まで15分くらいしか残っていない！

こんな状態であったので、飛行機は定刻に飛ぶはずもない！ 結局1H遅れで日本へ向けて出発する。日本までは3Hの空の旅である。

これで夏休みが終わるかと思うと、今回の遠征での出来事が頭に浮かんで消える。

さあ次はどここの山を目指そうか？

明日からは仕事が待っている！



記録: 澤田